

豊田市 視察の感想

東白川村役場 居石浩之

1 日目の感想 (くるま座ミーティング)

これからテクノロジーの進化により生活は便利になり、より自由な時間もそれに伴って増えていくと思います。ゆとりが生まれた日々の生活に人間らしさがより求められるようになっていくのだろうと感じました。今までの私たちの効率を重視した経済優先の発展の生活では、世界は持続していかないこと。自然のチカラを生かし、自然と共に自然に寄り添うことを実践している登壇者の活動は将来を生きる私たちに一つの方向性を指し示してくれたようでした。

森林アカデミーの久津輪^{くつわ}先生の分科会では、木工をより身近なもの、手軽なものとして感じられる機会となりました。久津輪先生が実践しているグリーンウッドワークとは伐ったばかりのみずみずしい生木を人力で加工して小物や家具をつくる木工です。分科会では、なぜこういった手仕事が最近見直されているのかといった話題に発展して行くのだろうと推察していましたが、時間の大半に木を削るワークショップに割り、参加者はただひたすら作品づくりに没頭する時間となりました。木をもくもくと削っていると子供の頃ひたすら砂場で遊び続けていたような(一種の瞑想のような)懐かしい感覚になりました。また、機会を設けグリーンウッドワークを実践したいです。

2 日目の感想 (豊田市内視察)

おいでん・さんそんセンターのような公的で信用のある拠点があるとまちといなかをつなぐ上で一般の人同士だけでなく、大学、企業といった様々な広がりを作ることが出来ると感じました。ただ一方、運営面で公的なお金が入っていると公の意識が常に必要であり、それによってセンターとして活動が制限されてしまうのではとも思いました。

そういった意味でも地域の住民のニーズからはじまる事業を行い、おいでん・さんそんセンターではつなげなかった人のつながりをつくっている民間の戸田さんの存在は、「誰一人取り残さない」地域の実現に欠くことの出来ない一つの重要な要素だと思いました。

集まり、話し合い、係わりあうことで何かが始まる。人とのつながりを作るためには行動すること。単純に知りたい、楽しみたいなど動機は何でも良いと思います。つながること、続けること、楽しむことを大切にこれからもやっていきたいです。